（別紙4）　　令和　5　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2170400523		
法人名	NPO法人 ウエルネットぎふ		
事業所名	ロングステイホームぬくもり		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町新町2504番地の1		
自己評価作成日	令和5年11月15日	評価結果市町村受理日	令和6年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2170400523-00&PrefCd=21&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和5年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

新型コロナ感染対策の影響で、外部の方との交流の場を作ることが中々難しかったですが、、新型コロナが5類になったことで、併設のデイサービスと合同での音楽療法ボランティアとの交流や、少人数での近所のお寺へ参拝、ドライブなど、その方の希望や身体の状態に合わせて外出の支援を行っています。
ご利用者様は100才の方を含め、平均年齢が93.1才。車いす対応の方が6名、看取り対応の方が1名と年々対応が難しくなって来ていますが、その方に合わせた工夫を凝らしながら、ご家族様との時間を楽しんで頂いたり、単調になりがちな施設での食事も、時にはご希望を伺って、季節のものを取り入れたり、手作りのおやつを楽しんで頂いたりと工夫をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームは、歴史ある街並みの中に建ち、旧銀行の建物の外観をそのままに改築した建物を利用し、複合的な事業展開を通じて、介護の拠点として地域に開かれた施設である。ホームでは、ロングステイの考え方の下、自立支援の観点から在宅復帰を念頭に、利用者の日常生活におけるエンパワメント向上に資するべく支援に努めている。施設長は看護師資格を有し、コロナ禍での感染対策を徹底し、コロナ5類移行後は、家族面会や少人数での散歩も再開しつつ、引き続き感染予防に心がけている。また、職員の育成に力を入れており、毎月の会議後に研修機会を設け、様々なテーマでスキルアップを図っている。なかでも身体拘束防止や虐待防止に対しては、スピーチロックについても虐待ととらえ、ケアを振り返るとともに、身体拘束をしないケアについて話し合っている。また、家族からの意見収集として運営推進会議の案内とともにアンケートを実施し、ケアの質の向上に活かしている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：15）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：14,27）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：27）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：25,26）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：36）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：20）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：18）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：8,9）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：3）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
53	職員は、活き活きと働けている（参考項目：10,11）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人は、旧銀行の建物を利用しており、地域になじみの施設として　”利用者の尊厳を守り、その人らしく生き生き暮らすことを支援する”を理念として、日々精進しています。法人の理念は玄関に掲示しています。	毎月の会議の中で、毎回テーマ別の研修を行っており、理念についても様々な事例を通して話題にすることで周知を図っている。また、理念の実践のために、日頃の挨拶が大切ということ等、その時々の目標を掲げる等して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や避難訓練などで声掛けしますが、コロナの影響からか参加は少ないです。 地域の寺院や散歩の際に、挨拶を交わす機会が増えています。	自治会に加入しており、回覧板等により地域の行事等の情報を収集している。また、地域の祭りにテント等の機材の貸出を実施する等、地域に貢献をしている。コロナの５類移行を機に、１階のデイサービスとの交流や散策を通じた地域交流も再開している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、定期的に行っていますが、新型コロナの影響で、書面会議の回もありました。 毎回、事前にアンケートでご意見を伺うようにしています。	会議の開催案内の際に、出欠確認を兼ねて事前アンケートを実施しており、自由に記載できる欄を設け、意見を伺うようにしている。会議では写真を用いたわかりやすい報告に心がけ、地域包括支援センターや地域の薬局等の専門職の参加も得て、様々な立場からの意見を伺っている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方とは、日頃から連携をとっています。	行政からはメールでの情報提供が多く届いており、必要に応じて連携を図っている。推進会議には地域包括支援センターから出席があり、意見をもらっている。また、事故報告については指定の書式で、市担当者に報告を行っている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本、身体拘束は行っていません。安全のために行うことが、知らずに拘束ということが分からないこともあり、毎年定期に研修を行っています。 玄関は1Fで、グループホームは2Fの為。デイサービスの休日には施錠しています。	毎年、研修を実施するとともに、定期のミーティングで身体拘束について話し合いを行っている。ケア実践については、安全面への配慮が必要なケースにおいても身体拘束の代替策を講じる等して、見守るケアに努める等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、研修を行っています。虐待であるという行動がある際は、個別に指導を行っています。	マニュアルを作成し、毎年の研修に活用している。例えば、「立たないで」「待ってて」等のスピーチロックに目を向け、話し合いをもち、虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、ケア実践に活かしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、研修を実施しています。今のところ必要性のある利用者はおりません。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族と面談し、説明を行っています。必ず質問がないか確認して、後からでもわからないことがあれば、連絡頂くように説明し、ご理解頂いています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様は、コロナ禍で面会の機会が少ないこともあり、運営推進会議で、毎回ご意見を書面でも伺い、ご希望を反映させています。面会の機会も最近増えており、電話や直接来所頂く時に困っていることはないか？ご意見を伺うようにしています。	コロナ5類移行後は、感染対策を講じた上で、家族の面会の機会を増やしている。直接顔を合わせ、利用者の様子について報告ができ、意見を伺う機会も増えている。家族からの意見については職員間で検討し、ホームの運営に活かしている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議とミーティングを開催しており直接意見を発言する場を設けています。 また、意見箱の設置、無記名アンケートの実施を行い、運営に反映させています。	全体会議とミーティングを毎月、開催している。テーマによっては会議内でもグループワークを行う等して、意見が言いやすい雰囲気づくりをしている。また、介護に関する困りごと等、意見を交わしたり、日常的な業務の中で、職員の意見を聞く機会を設けたりしている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員は、それぞれ希望や立場が違うので、個々に希望を聞いて、長く働きやすい環境を心がけています。 コロナを含め、急な休みにもお互い助け合う関係を大切にするよう指導しており、サポートしています。	職員一人ひとりの家庭事情や希望を踏まえ、ワークライフバランスに配慮した勤務環境を整えている。有給について積極的に取得ができるよう、職員相互で助け合える関係を大切に、デイサービス職員も含め、協働の意識を高めるよう呼びかけている。職場環境等、就労に関する無記名アンケートを実施し、意向等分析し、働きやすい環境となるよう努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、処遇改善研修を実施しており、なるべく現場の状況に必要なテーマを採用しています。 意欲ある職員の研修の機会を尊重しており、資格取得の支援も行っています。	ホーム内外の研修機会を多く設けている。 ホーム内研修については年間計画を立て、毎月テーマを設けて実施している。外部の研修については、案内を掲示し、参加希望の職員を募っている。初任者研修や介護福祉士資格等についてもサポートしつつ、取得を促している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会つくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍での交流は困難でしたが、今後は管理者の成長を願って地域にも出ていける場を作っていきたいと考えています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本来、グループホームは生活を共にすることで認知症の進行を穏やかにすることが大切ですが、援助することが多い中、施設的な対応になりがちな時もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、ご希望を叶えたいという気持ちで対応しています。外食はまだ出来ていませんが、施設で提供できるものであれば、出来る限り手作りで提供しています。	日頃の会話から、食事に関する意向等を聞いている。メニューは事前に決まっているが、食べたい物で手作りが可能な品の場合は、季節行事として取り入れたり、主菜を変更したりする等して、柔軟に対応している。糖尿等の食事制限についても、本人の思いを汲みつつ、量を加減する等の工夫をし、提供している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで、利用者の状態の変化や問題となることを話し合い、全職員が共通認識としてサービス計画に反映するようにしています。	毎月のミーティングでモニタリングを行い、介護計画の作成や見直しを行っている。計画作成については、ケアマネージャーを中心として、家族や介護職員の意見を収集し、計画に反映させている。計画書は個人ファイルに閉じられており、いつでも確認ができるようになっている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録はiPadを利用し、時には写真を添付して入力しています。また日々の申し送りと業務日誌を活用して、全職員が情報の共有をしています。	日々の記録について、電子化に取り組み、様々なソフトを試した上で、使いやすいものを選択して、導入している。受診や緊急搬送の際には記録を印刷し、情報提供に努めている。	利用者一人ひとりの介護計画について、目標や援助内容を職員がより意識して把握し、それに基づいた実践記録としていく取り組みに期待したい。
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	何らかの理由により、不穏状態になったり、入居者様同士のトラブルがあった場合、1Fデイサービスに降りたり、散歩をしたり、個別の対応を行っています。	コロナ感染対策を行いながら、1階のデイサービスへ出かけ、理学療法士の施術を受けたり、交流を楽しんでもらったりしている。地域の交流カフェが休止されている現状やホーム前の通りが通学路であることを踏まえ、多世代交流の場所にできないかとの視点を持ち、検討している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年の5月竹鼻まつりでは、2Fの窓から山車を見たこと、曾孫さんの着物姿を見れたことが印象的でした。練り歩く山車を真近で見学でき、歴史あるお祭りで、入居者が懐かしんでおられ、話がとても盛り上がりました。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療があり、常に主治医との連携が取れています。主治医も利用者家族の希望に沿って、3名の医師が担当しています。また往診以外でも連絡を取って、適切な医療が受けられています。	かかりつけ医の選択は利用者・家族の自由で、今までの主治医をそのまま継続している利用者の場合でも、嘱託医として、月2回の訪問診療や、緊急時の診療を受けている。専門医等の他科受診の場合は、家族同行をお願いしているが、必要であれば、職員同行の「移送サービス」も利用できる。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	異常時には、主治医への連絡がスムーズに行え、入院の際も円滑に行えます。また、地域の羽島市民病院との連絡も密にとれる体制で安心しています。	入院時には、本人の日頃の状態について医療機関に情報提供し、診療がスムーズに行えるよう支援している。退院時には書面による情報に加え、電話等でADLや注意事項等を確認することで、ホームで安心した生活に戻れるよう支援している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合の意向を確認しています。終末期は、ご家族様の希望があれば、ぬくもりで看取りを行い、現在1名が対応中です。	入居時に、終末期のあり方や看取りの方針に関する説明を行い、家族や利用者の意思を確認しているが、重度化した場合には、主治医から説明を行い、再確認をしている。看取り期に入った場合には、家族との時間を大切にしてもらえるよう配慮している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、異常時や急変時には、看護師による的確な指示ができるように定期的に研修を行っています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを完備し、定期的に避難訓練を行っています。 夜間設定の火災時の避難訓練は11月に実施する予定です。 今後、BPC策定も完成予定です。	マニュアルを作成し、年に2回、避難訓練や防災訓練を行っている。利用者も参加し、消防署の協力も得ている。ハザードマップで、水害の恐れがある地区であることを把握しており、「垂直避難して2階で救助を待つ」という方法で周知が図られている。また、災害時の備蓄品も備えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊敬の気持ちを忘れることなく接しています。また、個別での尊重したうえで、入居者様の心情に合わせた対応も行っています。	利用者の人格を尊重する観点から、介助が必要な場合、利用者の気持ちを大切に考え、尊厳やプライバシーを大切にした声かけをしている。また、言葉づかいについて、職員同士で注意し合える環境ができている。さらに、トイレや入浴等、同性介助を望まれる利用者の希望に沿った対応ができている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご利用者の想いを汲み取り、出来る限り希望に添えるように支援しています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れはありますが、状況・状態を把握し、どうしたら喜んで頂けるか・安心して頂けるかを考えて支援を行っています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなものが食べられないと食事に不満を訴える方がいらっしゃいます。定期的に聞き取りをし、献立メニューに出ないもの・季節を感じられる食事の提供に努めています。昔ながらのおやつ作りも人生の先輩に教わりながら作っています。	主食と汁物はホームで調理し、地元の美味しいお米を使用している。副食は外部から取り寄せ、提供している。季節の行事等の際や利用者の希望に応じて職員が手作りの食事を提供している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日記録し健康管理に努めています。水分量と排泄の回数や量をも確認しながら、無理のないように水分補給にも努めます。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食事後の歯磨きケアを実施。口腔内の状況に合わせ、歯ブラシ・口腔スポンジ・口内洗浄液を個別で、変化に応じて対応しています。	1日5回、食後だけでなく、起床時、就寝時にも、職員による声かけや、一部介助を受けながら歯磨きを行っている。利用者により、歯ブラシやスポンジ等を使い分ける等して、いつまでも食べられるよう支援しており、誤嚥性肺炎の防止にも役立っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿チェック表を使用し、排泄の間隔などを見て、個別での声掛けや排泄介助を行っています。尿意を訴えられる方でも、間隔が開いている時は、声掛けし介助を行っています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	安心・安全に出来るように機械浴にて実施しています。拒む方には無理に入って頂かず、時間を置けるや別日に入って頂いています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	13～14時をお昼寝の時間とし、1時間の休息を行っています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は入居者にとって必要不可欠なものであり、服用忘れ・誤薬がないように、服薬チェック表での確認しています。誤薬予防で2人での確認を行いチェックしています。状態の変化により、不快なく服用できるように薬の形態を変えています。	毎年、薬に関する研修を行っている。薬の変更時には、個人ファイルの薬事情報も最新のものに更新している。また、誤薬や服用忘れに十分注意し、職員2人で確認している。利用者の嚥下状態に合わせ、薬の形態を変える等して、服用してもらっている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夕食後から就寝までの時まで自由な時間を過ごして頂きます。世間話や買い物の話と会話が弾まれる方々や新聞広告での物入れづくりや脳トレを行う方と自由な時間を尊重しています。	洗濯物たたみや食器拭き等、手伝いを希望する利用者が多く、状況に合わせてお願いしている。また、外出支援は、安全に配慮して少人数で行っている。室内では、くつろいだり、計算やクロスワードパズル等、思い思いの楽しみにいそしんだりしながら、過ごしてもらっている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在も、ご家族との外出は困難です。 感染対策で行きたい場所への外出の支援はできていませんが、花見や紅葉等人が集まらないように注意し、少人数でのドライブや散歩等、外に出ることが増えています。	コロナが5類に移行し、少しずつ外出ができるようになり、最近は少人数で銀杏を見に出かけたとの事である。近くの様々なお寺に、散歩や外気浴を兼ねて出かけている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内での金銭の所持は紛失などの懸念があるので禁止してますが、喫茶店や買い物に同行し、金銭感覚の保持に努めることができればと思います。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自ら電話をしたり手紙のやり取りをする際は、ご家族の了解を得てからにしています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の構造上、洗面所や厨房から利用者の状況が分からないので、夜間は特に不安な面があります。共有の壁には、作品が掲示してあります。	共用部分であるリビングは各居室と隣接しており、広くて明るい。また、利用者が居心地良く過ごせるように換気や温度・湿度に留意している。壁には利用者による作品が多く飾られ、温かみが感じられる。時節柄、クリスマス仕様のものが多く見られ、季節感を感じることができる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内では一人ひとりの居場所がありませんが、机の配置を定期的に変更し、気分転換が出来るように工夫しています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の広さはご家族が談話の為に入られても十分な広さがあります。テーブルや家具を持ちj込み、思い思いの配置で過ごしておられます。また、ご家族様からの贈り物や、ご自身で作られた作品を飾って楽しまれています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内においては、居室の名前などの目印やトイレの場所がわかるように張り紙などで誘導の工夫をしています。		